

平成 29 年第 19 回

札幌市教育委員会会議録

平成29年第19回教育委員会会議

1 日 時 平成29年9月7日（木） 13時30分～14時05分

2 場 所 S T V北2条ビル4階 教育委員会会議室

3 出席者

教 育 長	長 岡	豊 彦
委 員	池 田	光 司
委 員	佐 藤	淳
委 員	長 田	正 寛
教育次長	大 友	裕 之
生涯学習部長	山 根	直 樹
学校施設担当部長	平 野	誠
学校規模適正化担当課長	永 澤	美 樹
学校規模適正化担当係長	佐々木	俊 晃
学校教育部長	引 地	秀 美
教育推進係長	上 野	千 沙
教育課程担当課長	廣 川	雅 之
義務教育担当係長	大 井	一 雄
義務教育担当係長	三 浦	敦 司
研修担当課長	工 藤	真 嗣
研修担当係長	菅 野	智 広
児童生徒担当部長	和 田	悦 明
総務課長	宮 地	宏 明
庶務係長	國 方	大 翼
書 記	洞 内	亮

4 傍聴者 6名

5 議 題

報告第1号 平成29年度全国学力・学習状況調査の実施報告書について

【開 会】

○長岡教育長 これより、平成29年第19回教育委員会会議を開会いたします。

本日の会議録の署名は、佐藤淳委員と長田正寛委員にお願いいたします。

本日は、池田官司委員及び阿部夕子委員から、所用により会議を欠席される旨の連絡がありました。

【議 事】

◎報告第1号 平成29年度全国学力・学習状況調査の実施報告について

○長岡教育長 それでは、早速、議事に入ります。報告第1号 平成29年度全国学力・学習状況調査の実施報告書についてです。事務局から説明をお願いします。

○学校教育部長 平成29年度全国学力・学習状況調査の実施報告書がまとまりましたので、ご報告いたします。お手元の資料の別紙1の実施報告書をご覧ください。

まず、表紙をめくっていただきますと目次がありますが、本日は、Iの札幌市の調査結果の概要の部分と、別冊となっております別紙2の分析のまとめと改善策を中心にご報告させていただきます。

なお、目次IIの教科に関する調査の結果概要及び改善の方向等について以降の内容につきましては、かなり細やかな分析になっておりますので、後ほど詳しくご覧いただき、お気づきの点につきましては個別にご質問いただければと思いますので、よろしくお願いたします。

また、後日、本実施報告書の内容を踏まえて、来年度のさっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランについてご説明させていただく予定でおりますので、その際にも改めてご質問等がありましたらお受けしたいと思っております。

それでは、お手元の資料別紙1の実施報告書、「概要」というインデックスのついている1ページ目になりますが、2番の調査の内容をご覧ください。

今回、調査の対象となった国語と算数・数学は、主として「知識」に関する問題で構成されるA問題と、主として「活用」に関する問題で構成されるB問題の二つが出題されております。また、生活習慣や学習環境に関する質問紙調査も実施しております。

次に、ページの下の方にあります5番、教科に関する調査結果の概要をご覧ください。

まず、①教科に関する調査結果の平均正答率（％）をご覧ください。

この部分につきましては、前回の教育委員会会議でご説明しましたとおり、文部科学省から提供された整数値の下に、札幌市が独自に計算した小数値を併記しております。

小学校は、国語及び算数の問題A・Bのいずれについても全国平均正答率と比較してプラスマイナス3ポイントの範囲内にあり、「ほぼ同程度」となっており、中学校も、国語及び数学の問題A・Bのいずれについても小学校と同じく、全国平均正答率と「ほぼ同程度」となっております。

なお、平均正答率の見方・取扱い方については、紙面の一番下の「重要」と

書かれたところをご覧ください。

二つ目のダイヤにありますように、本調査における平均正答率の1ポイントの差は、平均正答数に換算すると0.09から0.36問の差にすぎません。このことについて具体的にご説明いたします。

改めて、5の①教科に関する調査結果の平均正答率(%)の小学校の表をご覧ください。

例えば、小学校国語Aは、全国と比較しますと平均正答率が0.7ポイント下回っております。正答数といたしましては、全15問中の0.1問程度の差ということになります。

したがいまして、数値の細かな差のみに着目するのではなく、全体の傾向を大きく捉えたり、無解答率や誤答率等も含め、成果と課題を丁寧に捉えたりすることが必要であると考えております。

それでは、ページを1枚めくっていただきまして、概要の2ページをご覧ください。

このページは、本調査における札幌市の児童生徒の成果と課題を各教科の領域別に全国平均正答率と比較できるよう、棒グラフで表現したものです。グラフ右側には札幌市の平均正答率、全国平均正答率の数値を示しております。

それでは、上段の小学校国語と小学校算数をご覧ください。

主として「知識」に関するA問題については、国語Aの「書くこと」を除き、全ての領域で平均正答率がおおよそ7割程度か、それ以上となっております。

一方、主として「活用」に関するB問題については、全国と同様に全体的に平均正答率が低くなっており、「活用」に課題があると捉えております。

これらの結果のまとめますと、グラフの右側にあるコメント欄に示しておりますが、国語の「読むこと」の領域及び算数Aの「量と測定」領域、算数Bの「数と計算」領域において改善が見られました。

次に、下段の中学校国語と中学校数学をご覧ください。

主として「知識」に関するA問題につきましては、国語Aの全ての領域で平均正答率が7割以上となっております。

一方、主として「活用」に関するB問題につきましては、国語Bの「言語事項」及び数学Bの全領域において、全国と同様に平均正答率がおおよそ5割程度か、それ以下となっております。課題があると捉えております。

続きまして、次のページの概要の3ページをご覧ください。

一番上の③全体の継続的な課題といたしましては、まず、一つ目、知識・技能の定着については、小学校国語の漢字を正しく書くことや、算数の小数の計算などに継続的な課題が見られております。

続いて、二つ目の「活用」に関しては、中学校で全国平均正答率を上回る設

問が見られる一方、「自分の考えを書くこと」や「判断の理由や解決の方法を説明すること」などの設問で、全国と同様に無回答率が高い状況が見られ、小・中学校ともに課題と考えております。

次に、その下の6番、児童生徒質問紙の結果の概要をご覧ください。

まず、札幌らしい特色ある学校教育における三つのテーマのうちの一つである「読書」にかかわる質問において、「読書が好き」と回答した子どもの割合は、右側の表にありますように全国と比べ高い状況であり、平成19年度の調査開始以来、最も高い数値となっております。

次に、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」子どもの割合は、全国と比べやや低い状況ではありますが、上昇傾向にあります。

また、「将来の夢や目標をもっている」子どもの割合は、全国と比べやや低い状況ではありますが、今年度は改善の兆しが見られました。

次に、「別紙2」というインデックスの分析のまとめと改善策と書かれた冊子をご覧ください。

まず、1枚おめくりいただきまして、表紙の裏側のページは、以前にお諮りし、札幌市で進めております平成29年度さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランです。

全国学力・学習状況調査は、「学ぶ力」の育成に関する取組の検証方法の一つと捉えております。本調査の結果から、これまでの取組の成果と課題を捉え、改善につなげていくことが重要と考えております。

その下ですが、次のページにある調査結果を踏まえた「学ぶ力」育成の改善策についてご説明いたします。

上段の分析のまとめにつきましては大変細かい字で読みにくくなっており、申しわけありませんが、先ほど説明いたしました教科に関する継続的な課題を再度掲載しているほか、この後ご説明いたします児童生徒質問紙調査の経年変化の分析について示しております。

この資料は、後ほど詳しくご説明いたしますので、ページをめくっていただき、次のページをご覧ください。

ここでは、児童生徒質問紙調査の中から、先ほどお示しした平成29年度さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランに掲げている取組の検証を図る上で、参考となる項目について、学ぶ意欲、課題探究的な学習、学習習慣の状況、読書習慣の状況の四つのカテゴリーに類分けし、それぞれの経年変化をグラフで示すとともに、分析を下段に示しております。

本日は、この中から特徴的なことを4点ご説明いたします。

まず、1点目は、学ぶ意欲の状況の全体についてです。

四つの項目の経年変化を見ますと、小・中学校ともに、まず、左から二つ目

の挑戦しようとする意欲や、その右隣の自分にはよいところがあると思うという自己肯定感が高まってきている様子が見られ、各学校で作成している「学ぶ力」育成プログラムに基づく授業改善が成果としてあらわれてきていると捉えております。

また、一番右にある「将来の夢や目標をもっていますか」という項目を見ていただきたいのですが、先ほど概要のところでご説明しましたとおり、小・中学校ともに、平成25年度から下降傾向にありましたが、今年度は改善の兆しが見られております。

2点目は、課題探究的な学習の状況についてです。ページを2枚おめくりいただきまして、7ページをご覧ください。

こちらでは、どの項目におきまして、小学校、中学校ともに肯定的な回答の割合が上昇傾向にあります。特に中学校においては、左から三つ目の「学級の友達（生徒）との間で話し合う活動をよく行っていたと思いますか」という項目が大きく上昇しております。

これにつきましては、平成28年度から進めてきた課題探究的な学習を取り入れた授業の充実について、一定の成果があらわれてきているものと捉えております。

一方で、一番右側のグラフになりますが、自分の考えを深めたり、広げたりすることについては、小学校、中学校ともに60%台で推移していることから、子どもが学習課題を解決する過程において、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる指導を一層充実させていく必要があると考えております。

3点目は、学習習慣についてです。その下の8ページのグラフをご覧ください。

家庭での学習に関する一番左側の項目、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」につきましては、小学校、中学校ともに肯定的な回答の割合が上昇しております。

次に、1ページめくっていただきまして、9ページの帯グラフをご覧ください。

これは、平日及び休日の1日当たりの授業以外の学習時間について、本調査が始まった平成19年度と今年度の結果を比較して示しております。グラフの中程にある矢印より左側は1時間以上学習している子どもの割合で、右側は1時間未満の子どもの割合となっております。

小学校、中学校ともに、平日及び休日の授業以外の学習時間が1時間以上であると回答している子どもの割合が、この10年で上昇しております。

また、小学校におきましては、平日、休日ともに全く学習しないと回答した子どもが、グラフの一番右の波線の帯の部分になりますが、この10年で半減し

ております。

このことは、各学校が、「学ぶ力」育成プログラムに学習習慣の定着を位置付け、子どもの実態を踏まえて具体的な取組を行ってきた成果と捉えております。

一方で、平日の学習時間が1時間未満の子どもの割合、グラフでは矢印より右側の部分になりますが、今年度の結果では、小学校では41%程度、中学校では31%程度となっております。

このことから、学習習慣については意識の向上は見られるものの、定着を図ることについては継続的な課題と捉えております。

4点目は、読書習慣についてです。10ページをご覧ください。

先ほど概要のところでご説明しましたとおり、札幌市の子どもは、全国と比較して読書好きの子が多い状況となっております。

今年度、小学校、中学校ともに、本調査開始以来、最も高い数値になっており、平成22年度から本格的に取り組んだ札幌らしい特色ある学校教育の読書に係る取組の成果と捉えております。

最後に、これまでご説明してきました調査結果を踏まえ、今後の札幌市の取組についてご説明いたします。資料は戻りまして、2ページをご覧ください。

先ほどご説明しました分析のまとめを踏まえ、今後も引き続き、資料中段以下にある三つの取り組みを進めてまいりたいと考えております。

一つ目は、各学校の創意工夫による指導方法等の工夫改善、「学ぶ力」育成プログラムの活用についてであります。各学校の相違工夫による指導方法等の工夫、改善をより一層進めていきたいと考えております。

具体的には、各学校における授業改善の取組が一層進むよう、札幌市の子どもの実態や有識者の意見も踏まえ設定した「学ぶ力」の育成に向けた五つのポイントを柱として、指導主事による助言機会の拡充や校内研修のさらなる充実を図ってまいります。

二つ目は、全市での課題探究的な学習の推進です。

自ら疑問や課題を持ち、主体的に解決する課題解決的な学習の一層の充実を図っていききたいと考えております。

具体的には、各学校における課題探究的な学習を取り入れた授業の更なる充実を図るために、紙面の右側にありますセルフチェック（例）を示すとともに、小学校においては、来年度の移行措置に向け「教育課程編成の手引」を改訂し、課題探究的な学習の事例を掲載したり、既に中学校に配布している手引きの課題解決的な学習の事例の活用促進を、さまざまな研修機会を通して促進したりしていく中で教員の指導力向上に取り組んでまいります。

また、課題探究的な学習の推進に関する考え方や各施策の関連を整理いたし

まして、さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランに位置付けることで、各学校における取組をより一層推進してまいりたいと考えております

三つ目は、指導資料・家庭への啓発等の充実、それから、さっぽろっ子「学び」のススメ」の活用についてです。

今年度、教育委員会では学校と家庭が連携して、学習習慣づくり・運動習慣づくり・生活習慣づくりを進める際の指針となるリーフレットとして、さっぽろっ子「学び」のススメを新たに作成し、学校を通じて全ての家庭に配布いたしました。

このリーフレットを有効に活用し、学校と家庭が同じ視点をもって、子どもの主体的な学びをともに支えていく取組の充実を図ってまいりたいと考えております。

各学校においては、これまでも、本調査の結果や日頃の学習状況から、子どもの実態を広く捉え、「学ぶ力」の育成に向けて様々な取組を進めてきたところではありますが、教育委員会といたしましても、本調査結果の更なる分析を進め、どのような取組が子どもの成長に有効に働いているのか、継続的な課題の改善を図るためには、これまでに加えてどのような取組が必要となるのかなど、改めて検討を行いたいと考えております。

あわせて、例えば、「学ぶ力」の育成に向け、教育委員会の施策や取組に対する教員の意識を把握したり、これまでの取組の成果と課題に関する有識者の意見を伺ったりするなどして、更なる取組の充実に努めてまいりたいと考えております。

今後の取組の詳細につきましては、来年度のさっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランに位置付け、後日、改めてお示ししたいと考えております。

なお、本日ご報告いたしました実施報告書、分析のまとめと改善策につきましては、この後、札幌市公式ホームページに掲載いたします。

さらに、各学校に対しましてはこの実施報告書等を送付し、自校の状況について把握と課題の改善を図ることを促すとともに、教員向けの各種研修会等の場면을捉えて、各教科の担当指導主事から調査結果についてきめ細やかに説明するなど、内容の周知を図ってまいります。

報告は以上です。ご質問やご意見等があればお受けしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○長岡教育長 ありがとうございます。報告第1号について説明をいただきましたが、ご質問やご意見がありましたらお願いします。

○池田（光）委員 分析のまとめと改善策の3ページについては、以前からも

議論していたのですが、「将来の夢や目標をもっていますか」という設問の数値が中学になると低いというのが非常に気になるところです。

ここだけが右肩下がりの形になっているのですが、もともとの問いの設定について、どんなことでこの数字が出てきているのか、もう少し詳しく教えていただきたいと思います。

○**教育課程担当課長** 別紙1ですが、小学校の「児童生徒設問紙」と書かれているインデックスの12ページをご覧くださいと思います。

質問事項の10番として「将来の夢や目標をもっていますか」という質問があります。そして、その右側に数字があるのですが、この数字は子どもの回答の状況を肯定的な順番で4段階で示している形になっております。

そして、ページの右端の肯定的な回答という欄についてですが、これは選択肢1番と2番の合計でありまして、文部科学省から示されている全国の数字と、札幌市の数字が記載されております。この質問事項10番について、札幌ですと今回は84.3%となっています。

○**池田（光）委員** このような問いで目標のことを聞かれても、つかみ切れなような気がします。

例えば、現状に満足しているかということを知っているのか、まだ夢や希望はもてないと思っているのか、この問いについては、今後、どのようなものがよいのでしょうか。

○**学校教育部長** そこは、子どもでも課題になっております。全国学力・学習状況調査を行う学年は6年生と3年生で、それぞれの校種の最高学年になります。この調査を実施しているのが4月ですが、6年生になったばかりのときに、将来の夢や目標というよりは、子どもたちは、どちらかというところ、この1年間、最上級生としてこういうことを頑張りたいという目標を持つ場合のほうが多いと思います。

これは、例えば、実施時期が2月とか、3月の卒業期間近ですと、将来に向けてこういう目標や夢をもって卒業して中学校に向かっていく、あるいは将来こういうふうになりたいというようなこともあるのではないかとということで、我々はそういう押さえをしている部分があります。

ですので、設問の項目と時期については、やはりよく吟味して、これで足りないということであれば、私たちで独自に調査している項目の中に新たな形をつけ加えていくことも考えて、もう少し綿密にとっていききたいと思います。

○池田（光）委員 企業だと、現状に満足しているかなどというところから入って行って、自分が会社に入って、自分のやりたかったことが具現化できそうですかとか、少し現実のことを押さえながら将来の話を聞き出すような説明をしているのですが、もう少し知りたいといいますか、特に中学になってこんなに低くなるというのはちょっと悲しいという気持ちもします。

○学校教育部長 ただ、先ほども申し上げましたが、ここ4年間で下がる傾向にはあったのですが、進路探究学習とか職場体験学習等々、少しずつ活性化している部分もあります。そういう意味では、今回、少し上昇しておりますので、この後の状況を見ていきたいと思えます。

○池田（光）委員 それは楽しみですね。わかりました。

○長田委員 今、経年変化を初めて拝見したのですが、すごくわかりやすいグラフだと思いました。

これをカラーなどにして、さらに経年変化がわかるようなものを取り入れてもよいと思えます。

学ぶ意欲のところを中心に見ていくと、平成24年度だけが特徴的だと思うのですが、何かの出来事があるってこのように盛り上がっているのですか。この時期は何かあったのですか。

○教育課程担当課長 現在は悉皆で全児童生徒に調査しているのですが、平成22～24年度は一度抽出に戻すという動きを国がしまして、22年度と24年度だけは、全ての学校の児童生徒ではなく、抽出調査で行いました。ですから、調査数については、たまたま調査の対象に当たった学校ということで、全国的に若干特異な振れ方をしているところがあります。悉皆ではなく、抽出調査で行った影響は排除し切れないと考えています。

なお、この抽出調査はこの2年だけです。

○佐藤委員 今回の調査結果では、小学校と中学校ともに全国平均とほぼ同程度ということでしたが、私が注目したのは、実施報告書の児童生徒質問紙の1ページと2ページの上のところ。全国と比較して顕著なものというところですが、中学校と小学校は、ほぼ同じ項目で全国を上回っています。

まず、特に小学校の31番と32番、中学校の33番と34番の予習、復習について全国を大きく上回っております。そういうことを見ますと、さっぼろっ子「学ぶ力」の育成プランがかなり有効に作用しているのではないかと非常に力強く

思います。

それから、小学校の66番、中学校の68番というところですが、少し長目の文章を書くということが余り難しいとは思わないという割合が札幌市では顕著です。これも、読書好きという傾向とあわせて、読書あるいは物を書いたりすることは全ての教科につながる基礎的な学力だと以前から言われております。この点も、これまでの施策がとても有効に作用しているのではないかと思います。非常に心強く思っております。

下の全国と比較して回答の少ないものは、改善していかななくてはいけないと思うのですが、どちらかというと、それほど難しくなく改善できるものが並んでいるような気がします。むしろ、全国を上回っている部分が札幌市の特徴として並べられているということは、今後、札幌市の子どもたちが伸びていくだろうという予想を強くするものでして、非常に心強く思ったという感想があります。

それから、札幌市では、課題探究的な学習の推進に力を入れてやっているわけですが、そこも非常に顕著に伸びているというデータがありました。

これについては、分析のまとめと改善策の7ページのグラフですが、右から三つ目の話し合う活動をよく行うことという項目が中学校では平成21年からぐんと伸びております。特に、平成28年度から29年度、つまり昨年度から今年度にかけて段階が一つ上がっていることから考えると、ここ数年の課題探究的な学習を推進している札幌市の施策が反映されている形になっているのではないかと思います。

3点目のさっぽろっ子「学び」のススメの活用は、家庭との協力を得ることとあわせて、現在のところの概要、それから、生徒質問紙調査の結果を見る限り、札幌市の教育政策が確実に成果を上げているのではないかと思います。

その一方で、復習、予習が、これだけきっちりと全国に比してできているのですが、平均値については、指摘されたように、一、二ポイントの差が重要ではないことは重々承知しております。この札幌市の子どもたちのよさというものが、全国平均を上回るという形でいずれ出てくることを期待したいと思います。

細かな改善点については、現場の学校あるいは先生方とで話し合っていて、各校レベルで改善の部分をご検討いただければと思います。以上です。

○長岡教育長 ほかにいかがでしょうか。

○池田（光）委員 長年、全国学力・学習状況調査を拝見させていただいて、

特に国語についての顕著な伸びがあると思います。これは読むところですが、非常に伸びているということは、札幌市がずっと力を入れてきた図書館行政のあり方というのが、本当に芽が出てきたということだと思います。

また、読解力アップのそういう習慣が全部の学力に影響していて、今後、レベルアップしていくのではないかという印象を受けました。

今回の結果を拝見して、改めて今までの努力に敬意を表したいと感じました。本当にありがとうございました。以上です。

○長岡教育長 私からも一言申し上げます。

事務局からもお話がありましたとおり、課題探究的な学習の推進について、札幌の取り組みが定着しつつあるその成果と言ってよいのかどうかわかりませんが、こういう数値になってあらわれてきているのかと思っております。そういう面では、今の取組が間違えていないといいますか、自信をもって、さらにこれからも進めていくことができると思っております。

さらに、このさっぽろっ子「学び」のススメの活用ではないですが、やはり生活習慣のところもさらに根付かせていただきたいと思います。予習、復習などの傾向も上がってきておりますので、子どもにそういう生活習慣について、家庭を巻き込んでしっかりと身に付けさせることによって、課題探究的な学習が定着していくと思います。

今後も、学校と十分に連携して、この取り組みを進めていただければと思いますので、よろしく願いいたします。全国との数値の差に余り一喜一憂しないで、やはり基本的なことをしっかりと前に進めていくということが大事ではないかと思っております。今後とも、よろしく願いしたいと思います。報告については、よろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 それでは、報告第1号については以上です。

【閉 会】

○長岡教育長 本日予定されております議題が終了しました。ほかに、各委員から何かご質問などはありませんでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○長岡教育長 以上で平成29年第19回教育委員会会議を終了いたします。

以 上